

東大寺

環境浄化が進み全てをEMで蘇生させるシステムと管理体制を確立

「第9回EMサミット近畿 in 奈良」で事例発表

NPO 緑の会

特定非営利
活動法人
NPO緑の会
取手市小文間
3838-1
TEL 0297-
72-8791

EM活用前の鏡池(平成19年10月)



EM活用後の鏡池(平成20年12月)



大仏殿



東大寺は、奈良時代(8世紀)に聖武天皇が国力を尽くして建立した寺で、華嚴宗大本山の仏教寺院であります。「奈良の大仏」として知られる盧舎那仏(るしゃなぶつ)を本尊とし、開山(初代別当)は良弁僧正(ろうべんそうじょう)である。現存する大仏殿は江戸時代、18世紀初頭の再建で、創建当時の堂に比べ、間口が3分の2に縮小されています。1998年に古都奈良の文化財の一部として、ユネスコより世界遺産に登録されています。

第9回EMサミットが11月22日に奈良市「なら百年会館」で開催されました。海外の事例発表を含めて幾つかの発表がありました。また、なかでも注目を集めたのは翌日の現地視察を含めた東大寺の発表でした。

この事例発表は、偉いお坊さん(華嚴宗庶務部長で東大寺庶務執事の狭川普文氏)がユーモアあふれる軽妙な語り口で、スライドを交えながら、東大寺におけるEMによる成果を発表されました。その成果を踏まえてEMの効用を奈良県内外の関係するお寺や、役所や施設に広めていきたいと力説されていました。



東大寺庶務執事の狭川普文氏

平成20年1月から始まった東大寺の浄化活動は、もともとEMに好意的であった奈良市役所の関係者と、Uネットの地区代表のお世話で境内にある鏡池の浄化や南大門周辺の弱りかけた松(150本)の蘇生と鹿の糞尿対策として取り組まれてきました。東大寺は10万坪余りの広い面積に多くの関連施設があり、鹿や酸性雨の影響で環境全体が弱い弱になっていました。

当初はボランティアレベルで始まり、徐々に成果が徐々に上がるにつれ、東大寺側は池や松の管理のみならず全体をEMで蘇生させるシステムと管理体制を確立していきましました。まず百倍利器を導入し、良質の活性液を大量につくるシステムを確立し、常時専任の担当者を3人配置し、東大寺全域にEMを活用する体制を構築しました。



講演中の比嘉教授

このように東大寺全体にEMを活用することにより、今では寺全体がEMの巨大なエネルギースポットになっており、比嘉教授によれば東大寺でしばらく過ごしている屈伸運動で手が地面に付かない人でも付くようになる、気分が明るくなり爽快になるとのことでした。

国宝で世界遺産でもある東大寺のこのようなEMシステム

比嘉教授の講演要旨

ムが日本中の神社・仏閣に波及すること、そう遠くないことのように思えます

日本では多くの社会問題に直面していますが、根本的な解決のためには、「不足」と「不安(恐怖)」の解決、競争社会から離脱した共存共栄社会システムの構築が必要である。比嘉教授は云います。「社会も生き物なので、健全な社会をつくるためには社会自体の免疫力を上げる必要があります。」、「社会の免疫力を上げるためには、使命感や責任感、正義感を持った人々が増えていくことが必要であり、それらを養うためのキーワードが・・・「自己責任」である。

本来、日本人はこれらのレベルが高いはずであり、実際に、自己責任でEMを活用して浄化活動を行ってきた愛知県の三河湾では、ボランテニアの力が海をキレイにしています。誰も取り組めず、「ローコスト・ハイクオリティ・サステイナビリティ(持続可能な)な技術・・・それがEMです。食糧の「不足」はEM農法、

懇親会で比嘉教授に質問する恒川氏



病気の「不安」はEM医療、「共存共栄社会」はEM生活。様々な問題を抱える社会の中で、「EMを使えばこれだけのことができる！」という事例を、日本が世界に示すチャンスであり、それを実践で示すことができるのが皆さんです。皆さんでEM生活を始めよう。というのが比嘉教授のメッセージでした。



東大寺の現地視察

取手市 ネットワークフェア2009に参加 生ごみ堆肥化のPRと野菜類を販売

取手市や団体、市民が交流を深める取手市の「ネットワークフェア2009」を広げよう、つなげよう、地域の輪が、11月28日(土)藤代スポー



センターグラウンドで開かれNPO緑の会も常総環境センターの平間所長補佐や樗木さん等と一緒に参加しました。当日はすばらしく澄んだ秋空の下、会場にはフリーマーケットや環境関連、ミニトレインなど約35のコーナーが設けられ、大人から子供まで大勢の参加者で賑わいました。NPO緑の会が陣取った常総環境センターのコーナーでは、生ごみ堆肥化の活動をパネルでPRしながら、会員・会友が育てた大根やヤーコン、準人ウリなどの野菜を販売しました。



編集後記 EMサミットに私も理事長夫妻と一緒に参加させていただきました。多くの事例発表の中でも東大寺の成功事例の発表は、舞台が宗教界の大御所であり世界遺産であることから、その波及効果は計り知れないものがあります。「ローコスト・ハイクオリティ・サステイナビリティ」のEMとその技術があまねく普及することを願わずにはおられません。 K F